仙台市の音楽ホール サラウンド型を計画

舞台のまわりを囲む観客席

仙台市は30日、2031年度の開館をめざす新音楽ホールについて、観客席が舞台のまわりを取り囲む「サラウンド型」に転換できるようにする計画を発表した。ホールは2千席規模で、転換可能な施設としては国内最大級だという。仙台フィルハーモニー管弦楽団が本拠地とすることも明らかにした。

市が基本計画の中間案を公表した。音楽ホールは大小二つつくり、小ホールを350席程度とすることも計画に盛り込んだ。サラウンド型に転換できるのは2千席規模の大ホール。普段は観客席が舞台と向かい合う劇場型だが、観客席と一体となった可動式の壁などを設置し、公演に合わせて変形できるようにする。

市の担当者は「舞台上の演奏者と観客の一体感がより増すほか、正面からだけではなく横からや後ろから見られて色々な楽しみ方ができる」と説明。県が仙台市内に整備を進める複合施設のホールとの「違いにもなる」とみているという。

音楽ホールは仙台市地下鉄東西線の国際センター駅（青葉区）近くに、震災メモリアル拠点との複合施設として整備を進めている。施設全体で指定管理者を置くこともこの日、示した。「高い専門性を持つ人材が重要」などとして、公募によらない形で指定管理者を選ぶ方針だ。

市によると、複合施設の建設工事費や設計費などは現時点で約350億円を見込む。駐車場の整備や音響設計、備品購入などの費用は含んでいないという。